



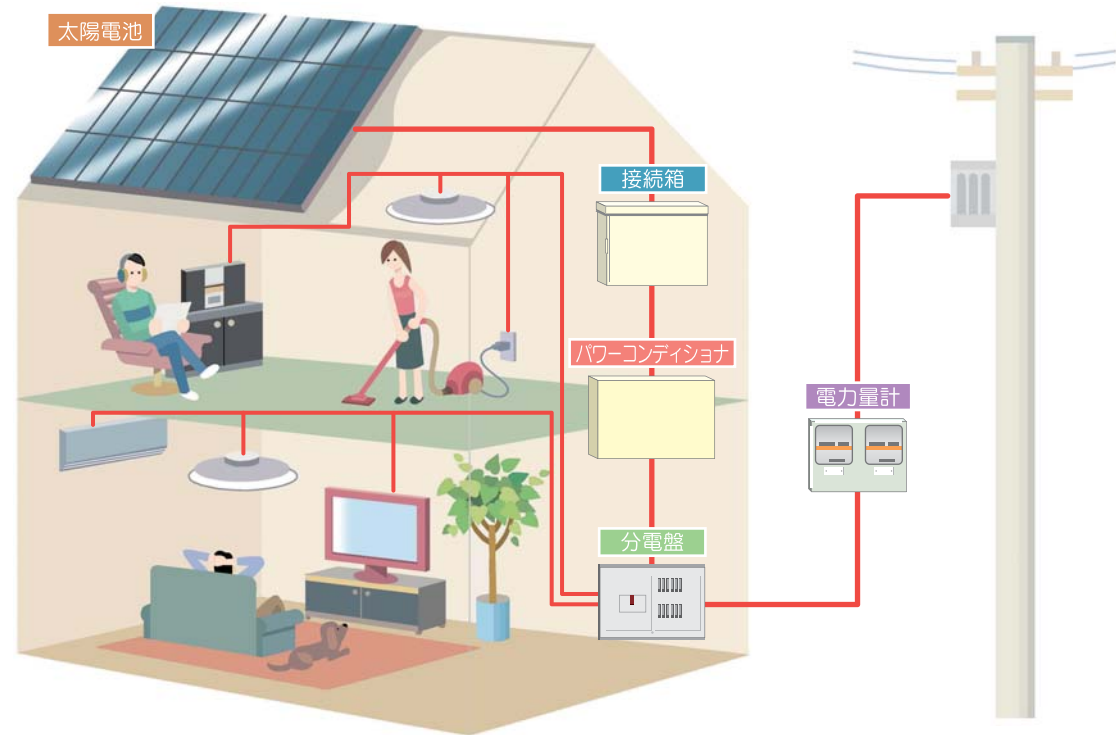
太陽光発電早わかりガイド

エコキュート採用オール電化との組み合わせで



Q1 太陽光発電のしくみはどうなっているの？

A 太陽光発電システムは、太陽からの光エネルギーを受けて太陽電池が発電した直流電力を、パワーコンディショナで九州電力と同じ交流電力に変換し、家庭内の様々な家電製品に電気を供給するしくみです。

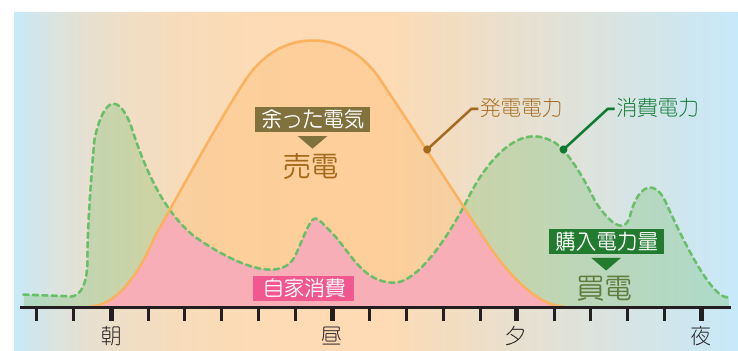


- 太陽電池**
太陽の光エネルギーを電気にする装置
- 接続箱**
太陽電池で発電した電気をパワーコンディショナに送る装置
- パワーコンディショナ**
太陽電池で発電した直流電力を家庭で使用可能な交流電力に変換する装置

- 分電盤**
各部屋へ電気を分ける装置
- 電力量計**
九州電力へ売った電力(売電)や、九州電力から購入した電力(買電)を計量するメーター。売電用と買電用の2つの電力量計が必要となります。

Q2 余った電気は九州電力に売ることができるって本当？

A はい、本当です。
昼間に発電した電気のうち、ご家庭で消費された分(自家消費)以外の余った電気は、九州電力に売ることができます。
なお、電気の売買には九州電力との契約が必要です。詳しい手続きの方法は、「お問い合わせ先」記載のページをご覧ください。

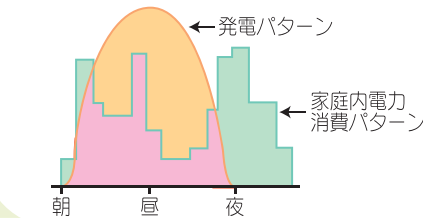


Q3 曇りや雨の日は、電気が使えなくなるの？

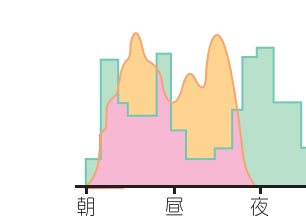
A いいえ、電気はいつでも使えます。
太陽が出ていれば発電しますが、曇りや雨の日など、天候が悪いと発電量は少なくなります。その場合、不足する電気は従来どおり九州電力から購入することができるので、電気が使えなくなることはありません。

- 太陽光発電でまかなっている部分
- 九州電力への売電分
- 九州電力からの買電分

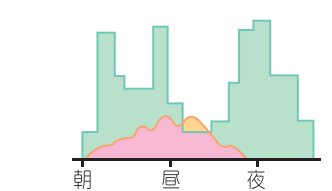
【晴れるとき】
日射強度に比例して発電します。九州電力へ売ることができる電気の量が多くなります。



【曇りのとき】
曇り具合にもよりますが、1日の中でも発電量の変化が大きくなります。



【雨のとき】
雨の日でも日射量に応じて発電しますが、九州電力から購入する電気の量が多くなります。



Q4 太陽光発電で、家庭で使う電気を全部まかなえる？

A 全部まかなうことはできません。
太陽電池容量1kWシステムあたりの年間発電量は約1,000kWh^(※1)です。九州電力が試算するオール電化住宅一世帯あたりの年間総消費電力量は約7,300kWh^(※2)なので、3kWシステムを設置すれば、4割程度を太陽光発電でまかなえる計算になります。

※1 NEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)の太陽光発電導入ガイドブックを参考に、年平均日射量(福岡市)×0.73(設計係数)×365日で試算しています。地域や太陽電池の方位、傾斜角度により発電量が変わります。
※2 九州電力がオール電化住宅の電気料金を試算する際のモデルケース(月間使用量610kWh)をもとに計算しています。

Q5 設置するのにいくらかかる？

A 価格は、各販売会社の営業窓口にお問い合わせください。
太陽光発電システムを設置するには、機器代や設置工事費等の費用がかかります。費用は、設置条件等によって異なりますので、各販売会社にお問い合わせください。
なお、一般社団法人「新エネルギー導入促進協議会」の調査では、住宅用太陽光発電システム平均設置価格(機器・工事費込み)については、66.9万円/kW(平成20年度)とホームページで公表されています。

Q6 設置に補助金はないの？

A 国や地方自治体によって様々な支援制度があります。
経済産業省により補助事業者に定められた太陽光発電普及拡大センター(J-PEC)が、平成21年度において太陽電池モジュール公称1kWあたり7万円の設置補助金の申請を受付けています。制度内容や申請条件、申請手続き等の詳細につきましては、J-PECホームページをご確認ください。
また、各自治体の補助金制度については、新エネルギー財団ホームページをご覧ください。
ホームページアドレスは、「お問い合わせ先」記載のページをご覧ください。

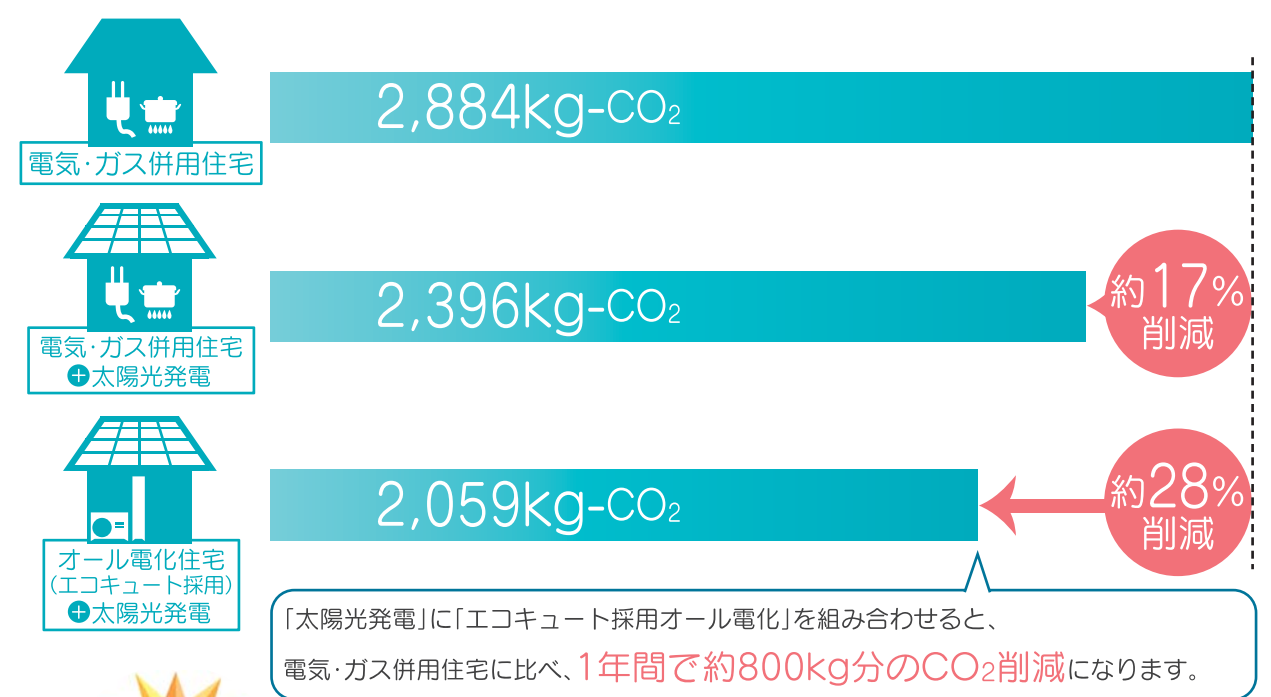
「太陽光発電」には「エコキュート採用 オール電化」で環境にも家計にもやさしい暮らし

～ 環境にやさしい ～

～ 家計にやさしい ～

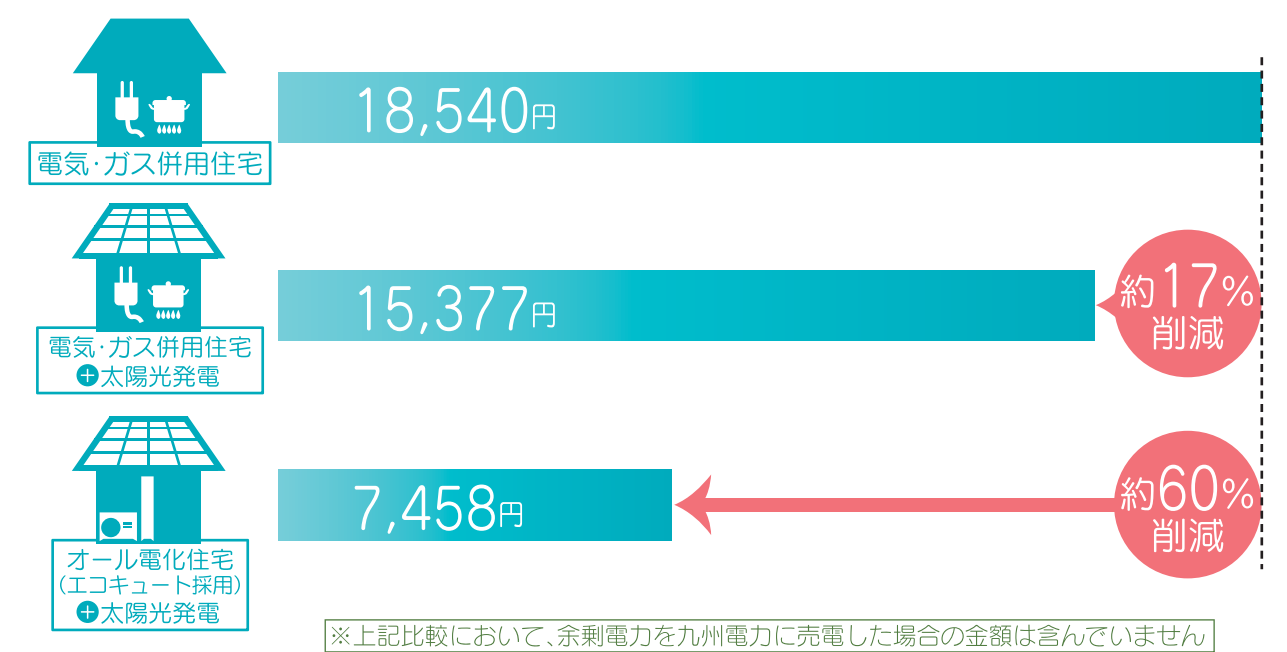
1年間のCO₂排出量の比較 (当社試算)

※あくまでも下部記載の試算条件に基づいたものであり、実際のCO₂排出量は地域・使用状況・機器効率等により異なります。



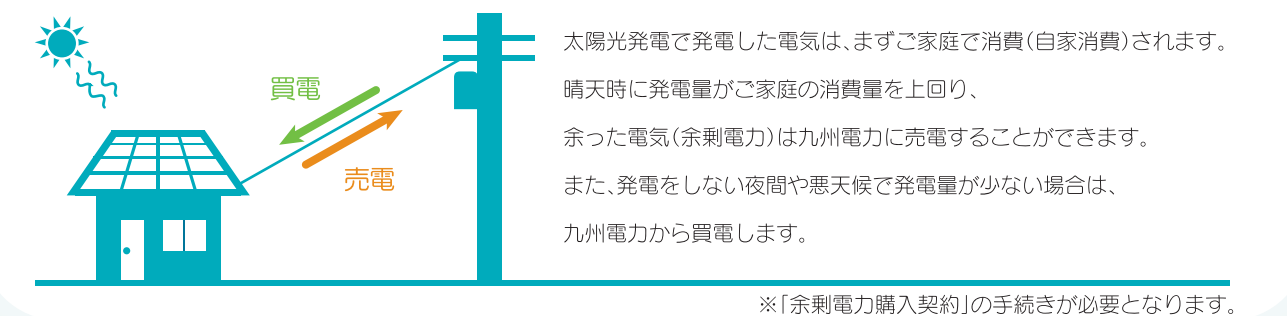
1ヶ月の光熱費の比較 (当社試算)

※あくまでも下部記載の試算条件に基づいたものであり、実際の光熱費は地域・使用状況・機器効率等により異なります。
※光熱費のみの比較であり、太陽光発電・オール電化のための初期費用および買替費用は別途必要となります。



太陽光発電にはオール電化を組み合わせ、オール電化住宅向け料金メニュー「電化deナイト」に加入することで、光熱費の削減につながります。

※「電化deナイト」への加入は、エコキュートなど容量が1kVA以上の夜間蓄熱型機器などをお持ちであることが条件となります。



※「余剰電力購入契約」の手続きが必要となります。

1. 電気・ガス併用住宅
 [電気]九州電力「従量電灯B(電気供給約款)」料金(平成20年9月改定)契約電流40A、使用量420kWh/月 ●燃料費調整額を含まない ●口座振替割引額・消費税等相当額を含む
 [ガス]西部ガス「家庭用高効率給湯器契約(選択約款)」料金(平成20年11月改定)料金表C、使用量40m³(給湯34m³、調理6m³)/月 ●給湯の年間負荷18GJ、ガスの熱量46.05MJ/m³、加熱効率95%(西部ガスデータ) ●調理の年間負荷2GJ、ガスの熱量46.05MJ/m³(西部ガスデータ) ●加熱効率56%(西部ガスデータ) ●原料費調整額は含まない ●高効率給湯器割引額・消費税等相当額を含む ※ガス暖房機(床暖房・ファンヒーター・浴室暖房乾燥機)の使用量は考慮していません

2. 電気・ガス併用住宅+太陽光発電
 [電気]九州電力「よかナイト10(選択約款)」料金(平成20年9月改定)契約容量6kVA(電灯60A)、使用量303kWh【昼間時間162kWh、夜間時間141kWh】/月 ●燃料費調整額を含まない ●口座振替割引額・消費税等相当額を含む
 [ガス]西部ガス「家庭用高効率給湯器契約(選択約款)」料金(平成20年11月改定)料金表C、使用量40m³(給湯34m³、調理6m³)/月 ●給湯の年間負荷18GJ、ガスの熱量46.05MJ/m³、加熱効率95%(西部ガスデータ) ●調理の年間負荷2GJ、ガスの熱量46.05MJ/m³(西部ガスデータ) ●加熱効率56%(西部ガスデータ) ●原料費調整額は含まない ●高効率給湯器割引額・消費税等相当額を含む ※ガス暖房機(床暖房・ファンヒーター・浴室暖房乾燥機)の使用量は考慮していません

3. オール電化住宅(エコキュート採用)+太陽光発電
 [電気]九州電力「電化deナイト(選択約款)」料金(平成20年9月改定)契約容量6kVA(電灯60A)、8時間通電機器割引2kVA、使用量493kWh【デイ49kWh、リビング144kWh、ナイト300kWh(うちエコキュート140kWh)】/月 ●給湯の年間負荷18GJ、電気の熱量3.6MJ/kWh、エコキュートAPF3.0(メーカー調べ) ※エコキュートを昼間(デイタイム・リビングタイム)に沸き増しする場合の使用電力量は含んでおりません ※オール電化住宅の光熱費は、夏季料金単価(3ヶ月分)とその他料金単価(9ヶ月分)の平均で算出しています ●調理の年間負荷2GJ、電気の熱量3.6MJ/kWh、加熱効率90%(メーカー調べ) ●燃料費調整額を含まない ●口座振替割引額・消費税等相当額を含む
 [太陽光発電]福岡の年間予想発電電力量約1,000kWh/kW/年【NEDO技術開発機構:全国日射関連データマップより】 ●太陽光発電設備容量3.5kW(年間予想発電電力量3,500kWh/年、292kWh/月) ※福岡の年間予想発電電力量は、福岡の年間平均日射量(kWh/m²/日)と太陽光パネルの最適な設置条件下(真南で傾斜角30度)で試算されたものであり、その結果を保証するものではありません。

4. CO₂排出原単位
 [ガス]2.355kg-CO₂/m³(西部ガスデータ) [電気]0.348kg-CO₂/kWh(九州電力2008年度実績値、CO₂排出クレジット反映後)

3,500kWh/年、292kWh/月) ※福岡の年間予想発電電力量は、福岡の年間平均日射量(kWh/m²/日)と太陽光パネルの最適な設置条件下(真南で傾斜角30度)で試算されたものであり、その結果を保証するものではありません。

3. オール電化住宅(エコキュート採用)+太陽光発電
 [電気]九州電力「電化deナイト(選択約款)」料金(平成20年9月改定)契約容量6kVA(電灯60A)、8時間通電機器割引2kVA、使用量493kWh【デイ49kWh、リビング144kWh、ナイト300kWh(うちエコキュート140kWh)】/月 ●給湯の年間負荷18GJ、電気の熱量3.6MJ/kWh、エコキュートAPF3.0(メーカー調べ) ※エコキュートを昼間(デイタイム・リビングタイム)に沸き増しする場合の使用電力量は含んでおりません ※オール電化住宅の光熱費は、夏季料金単価(3ヶ月分)とその他料金単価(9ヶ月分)の平均で算出しています ●調理の年間負荷2GJ、電気の熱量3.6MJ/kWh、加熱効率90%(メーカー調べ) ●燃料費調整額を含まない ●口座振替割引額・消費税等相当額を含む
 [太陽光発電]福岡の年間予想発電電力量約1,000kWh/kW/年【NEDO技術開発機構:全国日射関連データマップより】 ●太陽光発電設備容量3.5kW(年間予想発電電力量3,500kWh/年、292kWh/月) ※福岡の年間予想発電電力量は、福岡の年間平均日射量(kWh/m²/日)と太陽光パネルの最適な設置条件下(真南で傾斜角30度)で試算されたものであり、その結果を保証するものではありません。

4. CO₂排出原単位
 [ガス]2.355kg-CO₂/m³(西部ガスデータ) [電気]0.348kg-CO₂/kWh(九州電力2008年度実績値、CO₂排出クレジット反映後)

低圧太陽光発電からの余剰電力受給契約を希望されるお客さまへ

- ▶ お客さまには、九州電力の「太陽光発電からの余剰電力受給に関する契約要綱(低圧)」を承認していただいたうえでお申し込みいただきます。
- ▶ 系統連系の技術検討や電力量計手配等の関係から、お申し込みから運転開始まで2ヶ月程度かかる場合がありますので、なるべくお早めにお申し込みください。

お申し込みから運転開始までの主な流れ・・・ 事前協議・連系申込 ▶▶ 技術検討・設置 ▶▶ 契約(運転)開始

RPS 法について

RPS 法の目的とは

RPS(Renewables Portfolio Standard) 法とは、2002年6月に公布された法律で、正式名称は「電気事業者による新エネルギー等の利用に関する特別措置法」です。電力会社などの電気事業者に対して、毎年度の販売電力量に応じた一定割合以上の「新エネルギー等電気」^(※1)の利用を義務付けることにより、新エネルギー等の利用を推進していくのが目的です。

これに伴い、電力会社は義務の履行のため、新エネルギー等を利用して自ら発電するか、太陽光発電等を行うお客さまから「新エネルギー等電気」を購入することになりました。

RPS法では「新エネルギー等電気」は、「電気」そのものの価値と、「新エネルギー等電気相当量」という新エネルギーとしての環境価値の2つの価値が含まれており、それぞれを分けて取り扱うことが認められています。RPS法の詳しい内容については、下記のホームページをご覧ください。

※1 「新エネルギー等電気」とは、太陽光・風力・中小水力・地熱・バイオマス発電設備等を用いて得られる電気のことをいいます。

「新エネルギー等電気」が認められるためには設備認定が必要です

お客さまが太陽光発電等によって発電した電気を、RPS法上の「新エネルギー等電気」として認めてもらうためには、国に対して設備認定の申請を行い、発電設備を「新エネルギー等発電設備」として認定してもらう必要があります。

九州電力では、太陽光発電の設備認定に係わる申請手続きをお客さまに代わって行います。この場合、「新エネルギー等電気相当量」を九州電力が購入し、利用することに同意していただきます。^(※2)

※2 「新エネルギー等発電設備」によって発電した電気には、九州電力以外との取引が可能である「新エネルギー等電気相当量」が含まれています。これを九州電力以外に販売する場合は、設備認定に伴う申請書類をお客さまご自身で用意され、国に対して申請いただくことになります。なお、お客さまが、「新エネルギー等電気相当量」を九州電力に販売することに同意した後でも、当社との契約を変更することにより、これを九州電力以外に販売することも可能です。

太陽光発電に関するホームページ

■太陽光発電全般	太陽光発電協会	http://www.jpaea.gr.jp/index.html
■余剰電力の売電	九州電力	http://www.kyuden.co.jp/company_liberal_elec_buy_index.html
■国の補助金	太陽光普及拡大センター	http://www.j-pec.or.jp/index.html
■各自治体の補助金	(財)新エネルギー財団	http://www.solar.nef.or.jp/index1.htm
■RPS法	資源エネルギー庁	http://www.rps.go.jp/RPS/new-contents/top/main.html

お問い合わせ先



この印刷物は、自然環境に配慮して古紙配合率100%の再生紙と、植物油インキを使用し、環境にやさしい水無し印刷で制作しています。